

新年の部

No.	作句年	部	俳句	季語	分類
9491	大正14年	新年の部	日出處に國し家して雑煮哉	雑煮	人事
9493	大正14年	新年の部	詩二曰ク家宝に宜し橙も	橙	植物
9667	大正15年	新年の部	故人全集年を迎へてめでたけれ	年迎う	時候
9668	大正15年	新年の部	文章の稿のまゝ新年に入る	新年	時候
9669	大正15年	新年の部	いつ炷きし香の名残や松の内	松の内	時候
10305	昭和3年	新年の部	はつ空の雲をかぎりぬ小松山	初空	天文
10306	昭和3年	新年の部	はつ空や雲は五色にかたまりて	初空	天文
10307	昭和3年	新年の部	はつ空や芦辺の雪に両三家	初空	天文
10308	昭和3年	新年の部	はつ空や古檜雲吐く峰つゞき	初空	天文
10309	昭和3年	新年の部	はつ空に横斜す庵の古木哉	初空	天文
10311	昭和3年	新年の部	屋外の枯木觀來る筆はしめ	書初	人事
10312	昭和3年	新年の部	峻嶺を攀づるが如し筆はしめ	書初	人事
10313	昭和3年	新年の部	厨なる古妻遠し筆はしめ	書初	人事
10314	昭和3年	新年の部	書始やいつ贈られし金不換	書初	人事
10315	昭和3年	新年の部	書始や朝凍りし庵の水	書初	人事
10316	昭和3年	新年の部	書始や窓の垂氷に咫尺して	書初	人事